

第2学年 学級活動指導案

②-ア

1 題材名 いっしょに楽しくすごすために (2)・ウ 望ましい人間関係の形成)

2 題材について

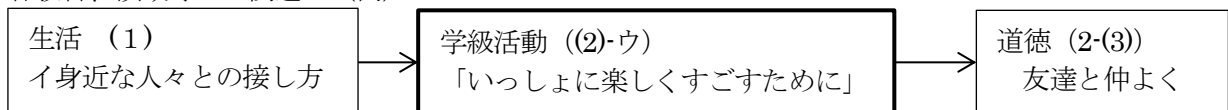
普段の生活において、児童が共同で作業を行ったり遊びや係・当番活動をしたりする際、何かを頼んだり断ったりする場面がしばしば見受けられる。頼むことで作業がスムーズにいく場合もあれば、一方的な頼み方のせいでトラブルになってしまうこともある。

本題材では、体験的にコミュニケーション方法を学ぶことで、相手の気持ちや立場を尊重しトラブルを回避しながら、より円滑な人間関係づくりを図ることをねらいとしている。

指導に当たっては、子どもたちがイメージしやすいような学校生活の一場面を設定し、どんなお願いの仕方や断り方をしたら自分の気持ちが相手に伝わり、相手に気持ちよく納得してもらえるかを考えさせ、問題意識や解決への意欲を高めたい。お面をつけたロールプレイングを取り入れることで、意欲的、主体的な考えを導くとともに、実践化につなげていく。

活動後はよい頼み方や断り方をされたことを振り返って効果を実感させ、共有できるようにしたり、ミニ練習会を定期的に行ったりして、児童の意欲の継続と向上を図りたい。

3 各教科、領域等との関連 (例)



4 指導計画

	教科等	主な学習活動
事前	朝の会	・「心の天気」自分の心の状態を天気で表し伝える ・上手な聞き方について役割演技をとおして練習する
本時	学級活動	・良い頼み方・断り方について考え、それをもとに役割演技で練習する
事後	帰りの会	・よい頼み方、断り方をしたことを振り返る ・ミニ練習会で様々な場面での良い頼み方・断り方を練習する

5 本時の学習

(1) 目標 より良い頼み方・断り方を考え、円滑なコミュニケーションができる態度を養う。

【思考・判断・実践】

(2) 展開

	学習活動 ・ 予想される反応	○教師の支援 ◆評価【方法】	資料等
導入 5	1 普段の様子から、人に頼みたいときや断りたいときに困った経験を話し合い、本時のねらいを知る。 ・頼んだら、きつい言い方で断られて悲しかった ・嫌だと言っても何度も頼まれて困った		
展開 30	2 場面設定を知り、上手な頼み方を考えながら役割演技する。	《使いたい色の色鉛筆がないことに気づいたコン太。隣のピョン子に「貸して」と言って返事を待たずに色鉛筆を取って塗	

	<p>り始めるコン太。泣き出すピョン子。》… 教師が演示する。 ○コン太の言い方をどう感じたか、快く貸したいと感ずるかどうか考えさせる。</p>		
	<p>コン太君はどんな言い方で頼んだらいいでしょう。</p> <p>(1) よりよい頼み方を考え話し合う。</p> <p>頼み方のコツ ① 相手が困らないか考える ② わけを言う ③ お願いする ④ 返事を聞く ⑤ しつこく言わない</p> <p>(2) 頼み方のコツをもとに役割演技する。</p> <p>3 上手な断り方について考え、断り方のコツをもとに役割演技をする。</p>	<p>○よりよい頼み方を発表させる中で、いろいろな頼み方のコツがあることに気づかせる。児童が気づかない点については教師が補足し、具体例を提示する。 ○ペア（グループ）で役割演技させることで、言いやすい雰囲気を作る。 ◆よりよい頼み方を考えて使っている。 【観察・発言】</p> <p>《実は、ピョン子ちゃんの色鉛筆はお父さんに頼んで買ってもらったばかりのもので、まだ一度も使ったことがありません。初めて使う時を楽しみにしていました。》</p>	お面
<p>終末 10</p>	<p>ピョン子ちゃんはどんな言い方でことわったらいいでしょう。</p> <p>断り方のコツ ① あやまる ② わけを言う ③ 自分にできることを言う</p> <p>4 これからのがんばりたいことについて考え、ワークシートに記入する。 ・断るときには理由をちゃんと言って断りたい ・優しい言い方で頼むようにする ・頼んだことをやってもらったときにはきちんとお礼を言う</p>	<p>○考えを発表し合い、断り方のコツを見つけさせる。 ○①がある場合と無い場合での感じ方の違いに気づかせる。 ○よりよい断り方を考え役割演技させる。 ○グループ（ペア）での活動が滞っている場合、具体的な例を示したり、意見を引き出しやすいような言葉がけをしたりする。 ◆よりよい断り方を考えて使っている。 【観察・発言】</p> <p>○上手な頼み方・断り方のコツを復唱させ確認させると共に、日常生活で活用することを促す。上手な頼み方・断り方によって友だちとうまくいくようになることに気付かせる。 ◆学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。 【ワークシート】</p>	ワークシート